2025年6月
体験学習室ーNo.30

けんぱくものしりシート

ブリキのおもちゃ

この金魚のおもちゃ、おばあちゃんの家で見たことがあるよ。

これはブリキのおもちゃです。ブリキはうすい鉄板をスズという金属でメッキ（※）したものです。

ブリキって缶詰やバケツにも使われているよね。

そうなの。日常の道具にも使われています。おもちゃにピッタリなブリキの特徴を紹介しますね。

※メッキ…うすい金属のまくで、ほかの金属の表面をおおうこと。

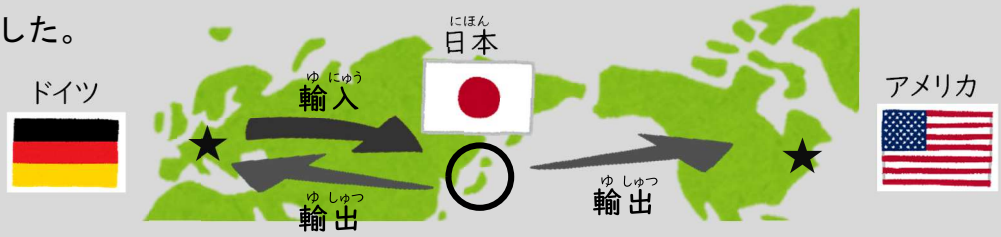
ブリキの特徴

- 落としても壊れにくい
- ぬれても丈夫
- 加工がかんたん

- 毒性がとても低くて安全
- 紙のように印刷ができ、あざやかな表現ができる

ブリキのおもちゃの歴史

ブリキのおもちゃは、1800年代の半ばにドイツで作られたのが始まりといわれています。明治時代の初めに外国から輸入されたのをきっかけに、日本国内でも作られるようになりました。



1918（大正7）年に第一次世界大戦が終わると、ドイツに代わり、日本が主な生産国となりました。第二次世界大戦中は生産が禁止されましたが、1945（昭和20）年の終戦後、生産と海外への輸出が再開され、1950～1960年代に最もたくさん作られました。

おもちゃの中では乗り物やロボットが特に人気がありました。

ゼンマイを巻いたり、ロウソクの火であたためたりすると、動くものもあります。

ゼンマイをまわす

水に浮かべた船の内部をロウソクの火であたためます。
その時にできる水蒸気で船が進みます。

その後、おもちゃが「プラスチック」や「塩化ビニール」といった新しい素材で作られるようになり、ブリキのおもちゃは見かけなくなりました。

珍しくなってしまったブリキのおもちゃですが、今でも世界中に熱心なコレクターがいるんですよ。

今のおもちゃとくらべてみるのもおもしろいかも。

参考 佐藤文夫 1993年『ロンドン おもちゃ・模型博物館』/安城市歴史博物館 1993年『企画展 おもちゃの文化史 —北原照久コレクション—』/大津市歴史博物館 2000年『ブリキのおもちゃと大津 戦後第1号の「小菅のジープ」』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。

岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
岩手県立博物館 検索
HPにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート
『ブリキのおもちゃ』

2025 年 6 月発行　体験―№30

■参考文献

・佐藤文夫 1993 年『ロンドン おもちゃ・模型博物館』

・安城市歴史博物館 1993 年『企画展 おもちゃの文化史―北原照久コレクション―』

・大津市歴史博物館 2000 年『ブリキのおもちゃと大津 戦後第 1 号の「小菅のジープ」』

・男の隠れ家デジタル「昭和レトロな「ブリキ」製おもちゃはなぜ消えた？」
https://otokonokakurega.com/learn/secret-base/11686/（参照 2025/05/15）

・日本玩具博物館「ブリキの金魚」
https://japan-toy-museum.org/archives/monthly/%e3%80%8c%e3%83%96%e3%83%aa%e3%82%ad%e3%81%ae%e9%87%91%e9%ad%9a%e3%80%8d（参照 2025/05/15）

・愛媛県総合科学博物館 友の会 科学クラブ「ポンポン船について」
https://www.i-kahaku.jp/friend/kagaku/topics0409/ponponsen.html（参照 2025/05/15）